

日々の新しい気づきを大切に、 シャツを縫うことを究めたい。

嶋本 祐子

ソーイングオペレーター・サンプル縫製



学生服

オフィス・ワーキング

ジーンズ・カジュアル

帽子

染色・加工

織物



もっと生の声

Q & A

— やりがいは何ですか？

サンプル縫製では、自分が考えた縫い方、仕様をもとにパタンナーなどと相談しながら最終の縫製仕様を決めるのですが、その仕様に沿って量産がスムーズに流れたときはやりがいを感じます。そういう時は、製品もきれいに仕上がっていることが多く、とても嬉しいです。

— 今後取り組んでみたい、実現したいことはありますか？

袖口の剣ボロや裾のカーブした部分の三つ巻縫いなど、苦手の縫製がまだまだあります。これからも、発見と改善を繰り返しながら縫製技術を高めていきたいです。

— 将来繊維産業に従事する人へメッセージをください。

始めたばかりの頃は、できないことも多くて、しんどいと感じる時期があると思います。特に縫製は、地味で同じことの繰り返しに見えて、辞めたいと思う時があるかもしれませんが、でも、そういう時期を乗り越えると、同じことの繰り返しの中にも新しい気づきがあって、仕事の楽しさをきっと感じられるようになります。若い人にはできるだけコツコツと続けてほしいと思います。

服を縫うことが趣味だったという嶋本さん。いったんは教育関係の会社で6年間働いたものの服を作る仕事が諦めきれず、東京の服飾専門学校でパターンや縫製を学びました。卒業時に、就職先を探していたところ、知人を通じて地元岡山の縫製会社で求人募集をしていると聞いて、これも何かの縁と感じ入社を決めました。入社当時は、前立てなどの部分縫いから始めましたが、新しいことを覚えるのが楽しくて「早くいろいろなものが縫えるようになりたい」と仕事が終わった後も職場に残って、サンプル縫いや特殊ミシンの練習をしたそうです。

入社7年目からは、サンプル縫製や少ロットの量産縫製を担当。入社14年目となり、今では1番のベテランとなっていますが、「日々、様々な商品を縫製している『もっとこうすれば上手く縫えたんだ』という新しい気づきがあり、それが見つけることが楽しくて、仕事のモチベーションにも繋がっています。」と話す嶋本さん。シャツを縫うことを究めるため、今日も嶋本さんはミシンを踏みます。

